



TITLE:

# 大腿骨頭置換術後10年で発症した 膀胱股関節癭の1例

AUTHOR(S):

浜野, 聡; 田中, 方士; 五十嵐, 辰男; 小島, 聡子; 鈴木,  
規之; 村上, 信乃

---

CITATION:

浜野, 聡 ...[et al]. 大腿骨頭置換術後10年で発症した膀胱股関節癭の1例.  
泌尿器科紀要 1996, 42(10): 743-745

ISSUE DATE:

1996-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/115831>

RIGHT:

## 大腿骨頭置換術後10年で発症した膀胱股関節瘻の1例

旭中央病院泌尿器科 (科長: 村上信乃)

浜野 聡, 田中 方士, 五十嵐辰男

小島 聡子, 鈴木 規之, 村上 信乃

VESICO-ACETABULAR FISTULA OCCURRING 10 YEARS  
AFTER TOTAL HIP REPLACEMENT

Satoshi HAMANO, Masashi TANAKA, Tatsuo IGARASHI

Satoko KOJIMA, Noriyuki SUZUKI and Shino MURAKAMI

From the Department of Urology, Asahi General Hospital

An 85-year-old female, who had had a total hip replacement for osteoarthritis in 1985, presented with gross hematuria in June 1995. Cystoscopy revealed a non-papillary sessile tumor in the right side wall of the urinary bladder with a crateriform opening on the top. Computed tomographic (CT) scan and excretory urography demonstrated a fistulous communication between the bladder and the acetabular bed filled with cement. The biopsy of the mass lesion suggested inflammatory granuloma with powdered cement. Since the lesion was composed of internal fistula, and was not accompanied with infection, the patient was treated conservatively. No external fistula had formed during the 5 months of observation.

(Acta Urol. Jpn. 42: 743-745, 1996)

**Key words:** Vesico-acetabular fistula, Total hip replacement, Cement

## 緒 言

大腿骨頭置換術後の膀胱股関節瘻の報告はきわめて稀である。今回われわれは右大腿骨頭置換術後10年を経過して発症した膀胱股関節瘻を経験したので報告する。

## 症 例

患者: 85歳, 女性

主訴: 肉眼的血尿

家族歴: 特記事項なし

既往歴: 1985年, 右変形性股関節症にて右大腿骨頭置換術を施行された。

現病歴: 1995年5月肉眼的血尿が出現し, 6月9日当科を受診した。膀胱鏡検査で右側壁に直径2 cm, 非乳頭状の広基性腫瘤を認めた。CT, DIPでは, 整形外科手術で使用されたセメントが右股関節から骨盤骨の欠損部を通過して, 膀胱部まで進展している所見を認めた (Fig. 1)。セメントによる膀胱股関節瘻が疑われたが, 内視鏡所見が膀胱腫瘍に酷似しており, この可能性を否定できなかったため, 6月13日精査目的で入院した。

入院時現症: 身長 137 cm, 体重 42 kg, 体格小。右大腿外側に術創有り。右股関節の可動性はほとんどなかった。ECOG によるパフォーマンス ステイタ

スは4度であった。

入院時検査所見: 血液検査で軽度の貧血を認めた。

経過: 6月15日, 腰椎麻酔下で経尿道的に腫瘤病変部の生検を行った。膀胱右側壁に直径2 cm, 非乳頭状の広基性腫瘤を認め, その頂上には噴火口状の開口部が存在した。病理組織検査でセメントの微粒子を含有した炎症性肉芽腫と診断した。本人の年齢と活動性, 整形外科的根治手術を行う場合の手術侵襲, 血尿の程度が重くないことを考慮し, 外来で経過観察とした。経過は順調で, 退院5ヵ月後の膀胱造影において

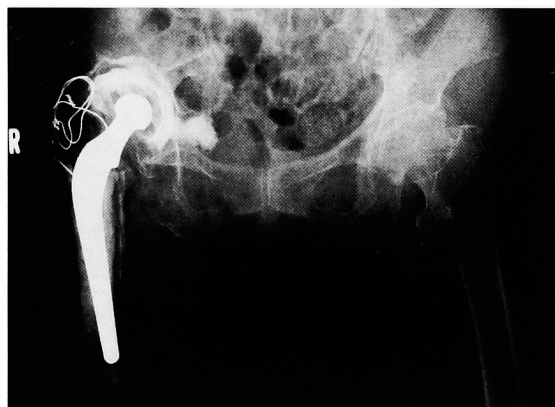


Fig. 1. Plain radiography of pelvic lesion confirmed a medial wall defect of hip joint and cement advancing to the bladder in the retropubic space.

造影剤が股関節まで到達したが、肉眼的血尿の再発や右股関節の疼痛、発熱、体表への瘻孔交通は見られなかった (Fig. 2)。

## 考 察

大腿骨頭置換術後に発症した膀胱股関節瘻の報告は

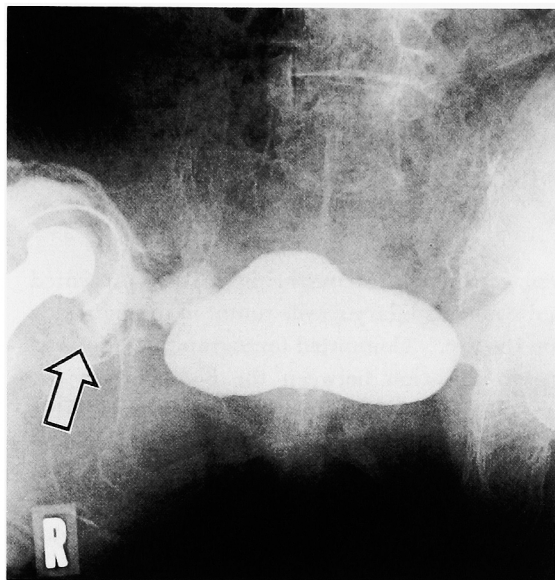


Fig. 2. Retrograde cystography showed a fistula between the bladder and the acetabular bed filled with cement. Contrast media entered the hip joint through the communication.

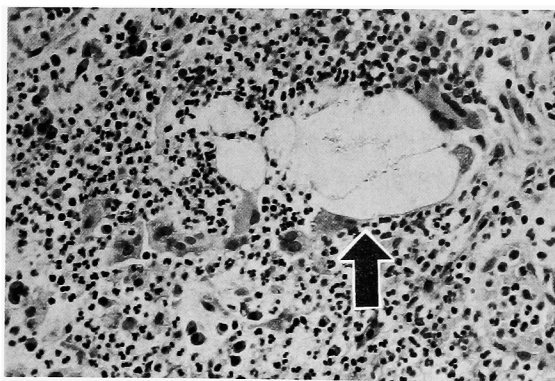


Fig. 3. Histological finding of the mass lesion of the bladder. A piece of powdered cement was surrounded by inflammatory granuloma.

きわめて稀で、英文文献上3例のみであった<sup>1,2,3)</sup>。瘻は深部組織、体内臓器、体表面の間に生じた病的な管状の連絡と定義される。瘻が体表面に交通する場合は外瘻、体内の臓器あるいは組織の間の交通である場合は内瘻と呼ばれる。また、内壁が粘膜であれば唇状瘻、肉芽組織であれば管状瘻とされ、前者は難治性である<sup>4-6)</sup>。既に報告されている3例は、すべて管状内瘻である膀胱股関節瘻に股関節付近の管状外瘻を合併したもので、膀胱股関節瘻のみの自験例とは初発症状が異なるが、後述するように発生機序は同様であると考えられる<sup>1-3)</sup>。膀胱股関節瘻としては自験例が4例目にあたり、本邦では初報告例である。この4症例の年齢、性別、大腿骨頭置換術から発症までの潜伏期間、初発症状、治療、経過を表に示した (Table 1)。既に報告されている3症例はすべて大腿骨頭置換術後2年以内に発症し、初発症状が術創付近の体表面の外尿瘻であったことが自験例と異なっている。4症例すべてで大腿骨頭置換術でセメントを使用しており、発症時にはセメントが骨盤骨の欠損部から膀胱部まで進展していたため、同様の発生機序によるものと考えられる。これまでの報告で、本疾患の発生は大腿骨頭置換術のセメント充填時の熱と膀胱部に進展したセメントや金属カップによる侵蝕が主要因とされてきた<sup>1-3)</sup>。自験例で、膀胱股関節瘻の開口部と考えられる腫瘤病変より貧食細胞に取り囲まれたセメント粒子がえられており、これを裏付ける結果となった (Fig. 3)。自験例以外の3症例のように、外瘻が形成された場合は難治性で、約1カ月の尿道カテーテル留置が無効の時は、症例1のように瘻孔の膀胱内開口部を外科的に切除して閉鎖する以外に有効な治療はないと思われる。Lowell ら<sup>1)</sup>は、抗生剤治療が無効な股関節感染症を伴った場合は人工骨頭を含め体内留置した器具をすべて除去して再度置換術を施行する必要があると指摘している。さらに症例3<sup>3)</sup>では術創部の尿瘻発生後4年で人工骨頭の脱臼を伴ったため再手術を施行したが尿瘻は消失していない。本疾患は外瘻を形成した後に整形外科医が発見し、泌尿器科に紹介される可能性が高く、このように外瘻を形成した後は速やかな診断と対処が必要であることを認識しなければならない。

Table 1. Vesico-acetabular fistula after total hip replacement reported after Lowell's report

Case	Year	Ag, Gender	Latency	Symptom	Therapy · Outcome
1 1)	1975	78 female	2 years	Urine discharge of thigh	Surgical treatment was successful
2 2)	1987	19 female	Immediately	Urine discharge of thigh	Continuous bladder drainage for 5 weeks resulted in spontaneous closure
3 3)	1990	84 male	2 years	Urine discharge from the operative wound	Second revision after 4 years did not improve the current status.
Present case	1996	85 female	10 years	Gross hematuria	Uneventful for 5 months under observation

## 結 語

きわめて稀な大腿骨頭置換術後に発症した膀胱股関節瘻の1例を報告した。

ご指導頂いた旭中央病院病理部の塚本哲先生, 鈴木良夫先生に感謝致します。

本論文の要旨は第508回日本泌尿器科学会東京地方会にて発表した。

## 文 献

- 1) Lowell JD, Davies JAK and Bennett AH: Bladder fistula following total hip replacement using self-curving acrylic. Clin Orthop **111**: 131-133, 1975
- 2) Roberts JA and Loudon JR: Vesico-acetabular fistula. J Bone Joint Surg **69B**: 150-151, 1987
- 3) Schneider HJ and Mufti GR: Vesico-acetabular fistula after total hip replacement. Br J Urol **66**: 754, 1990
- 4) Anderson DM: Dorland's illustrated medical dictionary 28th Edition. WB Saunders Company, pp. 635, 1994
- 5) 五島 稠 (編者代表): 最新医学大辞典, pp. 1517, 医歯薬出版株式会社, 東京, 1994年改訂版
- 6) 三島好雄, 鷺尾正彦: 外科的診断法, 標準外科学, 武藤輝一, 田辺達三編, 第七版 pp. 12, 医学書院, 東京, 1995年改訂版

(Received on March 4, 1996)  
(Accepted on June 7, 1996)